

パートⅡ：子なる神は移住者の神である。

はじめに

1. 時代背景

(1) 中間時代の特徴

- ①エズラ以降のユダヤ教の展開
- ②バビロン捕囚の原因を取り除こうとする動きが起こった。
- ③律法に違反しないための「垣根」が作られた。
- ④それが口伝律法の体系となった。

(2) ローマの圧制

- ①一時的な自治の時代（ハスモン王朝）を経て、ローマが支配する時代へ
- ②民衆の間にメシア待望の意識が広がる。

*政治的メシア像

2. メシアの先住性と永遠性

(1) 先住性

- ①人間として誕生する前から存在していた。
 - ②天地が創造される前から存在していた。
- *時間が始まる前から存在していた。

(2) 永遠性

- ①メシアは、天地創造の前から、永遠に存在しておられた。
- ②メシアの永遠性が否定されたなら、イエスは神ではなくなる。

(3) ヨハ 10：30～31

Joh 10:30 わたしと父とは一つです。」

Joh 10:31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。

- ①イエスは、父なる神と同一の性質を有しておられる。
- ②この聖句は、メシアの先在性と永遠性を示している。
- ③ユダヤ人たちは、イエスの主張をよく理解した。

(4) ヘブ 13：8

Heb 13:8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

- ①この聖句も、イエスの永遠性を前提に理解すべきものである。

3. メッセージのアウトライン

- (1) メシアの受肉
- (2) メシアの死と復活
- (3) メシアの昇天

このメッセージは、子なる神が移住者の神であることを学ぶものである。

I. メシアの受肉

1. ロマ8:3

Rom 8:3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。

- (1) 神の御子は、人間性をまとわれた。
 - ①父なる神は、御子を派遣する移住者の神である。
 - ②その結果、理解不可能な神が理解可能な範囲に入って来られた。
(例話) 映画『奇跡の人』

- (2) 神の御子がまとわれた人間性は、罪の影響を受けていなかった。
 - ①人でなければ、死ぬことはできない。
 - ②神でなければ、人を救うことができない。

- (3) 罪の贖いは、「神 - 人」という概念によってのみ成就する。

2. ピリ2:5~11

Php 2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

Php 2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、

Php 2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、

Php 2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

Php 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

Php 2:10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、

Php 2:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえ

られるためです。

- (1) 「ご自分を無にして」「but emptied himself」(7節)
 - ①ギリシア語の「ケノオウ」という動詞である。
 - ②キリストは神であることを捨てたわけではないが、神としての特権を捨てた。
 - ③神以外の在り方を受け入れた。つまり、人間としての性質を受け入れた。
 - ④これこそ、天から地への移住である。

- (2) ここには、父なる神への従順がある。
 - ①イエスは、私たちが経験するすべての痛みや悲しみを通して。
 - ②その従順は、十字架の死に至るまでの従順である。
 - ③この従順が、イエスが高く上げられるための土台となった。
 - ④最初のアダムは死をもたらしたが、最後のアダムはいのちをもたらした。

- (3) パウロは、教会内の対立と分裂を正すために、ピリピ人への手紙を書いた。
 - ①キリストの心構えを自分のものとした生き方を求めるべきである。
 - ②受肉によって、罪のない人間性がどのようなものであるかが示された。

3. ルカ 1 : 31～33

Luk 1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

Luk 1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

Luk 1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

- (1) メシアの受肉は、ダビデ契約を成就するためのものでもある。
 - ①ダビデの王位に就くためには、その人物は人間でなければならない。
 - ②とこしえにヤコブの家を治めるためには、神でなければならない。

4. 受肉のまとめ

- ①神の性質を知った。無条件の愛を知った。
- ②救いの方法を知った。
- ③クリスチャン生活の手本を知った。

II. メシアの死と復活

1. マタ 16 : 21

Mat 16:21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、

律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

(1) 福音書では、十字架の死と復活はセットになって預言されている。

- ①メシアの死によって、裁きから解放するための代価が支払われた。
- ②人類が、神と和解させられた。
- ③この世の支配者が、裁かれた。

2. 1 コリ 15 : 3~4

1Co 15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

1Co 15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

(1) 「福音の三要素」

- ①キリストの復活がないなら、キリスト教は実質のない宗教になってしまう。
- ②キリストの復活は、絶対に譲ることのできない事実である。

3. 1 ペテ 3 : 18~22

1Pe 3:18 キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。

1Pe 3:19 その霊において、キリストは捕らわれの霊たちのところに行って、みことばを語られたのです。

1Pe 3:20 昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずかに八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。

1Pe 3:21 そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。

1Pe 3:22 キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの權威と権力を従えて、神の右の座におられます。

(1) キリストの霊の復活は、十字架上で起こった。

- ①断絶した父なる神との関係が、回復した。
- ②「父よ」という呼びかけ

(2) 復活した霊の状態で、キリストは死者が行く場所に行かれた。

- ①ハデス（黄泉）

②シオール

③キリストが昇天する前なので、そこには祝福の場所と苦しみがあった。

④昇天後は、祝福の場所は天に上げられた。

(3) キリストは、ハデスの苦しみのある場所に行き、勝利を宣言された。

①「みことばを語られた」とは、「公に宣言する」という意味である。

②この聖句は、セカンドチャンスを教えたものではない。

(4) その後、キリストは天に昇られた。

Ⅲ. メシアの昇天

1. 使 1 : 9~11

Act 1:9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなりました。

Act 1:10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。

Act 1:11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

(1) メシアは自力で昇ったのではなく、父なる神によって上げられた。

①ルカ 24 : 51 参照（新共同訳）（受動態になっている）

②これは、文字通りの昇天である。

③メシアは、シャカイナグローリーに包まれて昇天した。

(2) メシアは、すべての被造物に対して権威を持つ地位に就かれた。

①1 ペテ 3 : 22

2. 使 2 : 32~33

Act 2:32 神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

Act 2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。

(1) 聖霊の時代が到来した。

①「もうひとりの助け主」（パラクレートス）が送られた。

(2) 教会が誕生した。

①教会の誕生は、聖霊を遣わしたメシアの業である。

②メシアは、種々の賜物を教会に与えた。

3. ヘブ 7 : 25

Heb 7:25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。

(1) メシアは大祭司となられた。

①信者のための執りなし

②人間の弱さを思いやってくれる大祭司

*ヘブ 2 : 18、4 : 14~16

4. ヘブ 6 : 19~20

Heb 6:19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側に入るのです。

Heb 6:20 イエスは私たちの先駆けとしてそこに入り、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司となりました。

(1) 私たちの「先駆け」として天の幕屋に入られた。

①メシアはすでに天の幕屋におられる。

②私たちは、そこに入るとの確信を持つことができる。

(2) 天には私たちのために住まいがある。

①ヨハ 14 : 1~3

②昇天によって父のもとに帰ったメシアは、信者のために場所を備えておられる。